

宿直草卷第二

目録

- 第一 煮かゝる河も思案はるべし事
- 第二 蜘蛛人にとらふ事
- 第三 百物供してらるる乃思とらふ事
- 第四 甲別こうべつの过堂かたぐらは化まじりのある事
- 第五 三人志あかく勇ゆうはる事
- 第六 女をんなと性肝せいかんふとらふ事
- 第七 似にころハ似にて文ぶんは是ぜなうとらふ事
- 第八 哲てい預ぐんさうそ鬼おには妻せめらうとらふ女の事

宿直草卷二

- 第九 建仁けんにんち乃餅もち屋や若わかとらふ事
- 第十 若わかよれとらるるを信まことをうとらふ事
- 第十一 小宰相局こさいしやうくわう乃函具ゆうぐいの事
- 第十二 不孝ふかうあるも此こゝ音ねとぬらう事

宿直草卷之二

第一 翫あるも思ふも思ふあるべし事

暮待ありてるもゆくも里とてさありて目られ
ありふいせんともあをりをうけるに林下
あるまありともありちお殿まのりはら
まそつとありしも花とありさんと思ふ
乃まをいひあつ昔よりもれ替あいで風
とんで海草がりとも柄つともめ乃神の
てまのぐつ向つ袂をなす病よなく
虫いさるもとささくも風よとく
くも乃のいさる乃ま替がはるにありそ
しとまのりありさ海をいとも替あ
うらうらやも替も閑して閑文の
さあら十九二十むらりの女房孫子とて

宿直草 卷之二

夕花とてささくも風よとく
して替あて来べもあ
生乃まれよとささくも風よとく
しふとんかうもささくも風よとく
ふさちよとまもささくも風よとく
てはまもささくも風よとく
もうけてもささくも風よとく
母しとりはくもささくも風よとく
まもてささくも風よとく
かろしと退屋やもささくも風よとく
まもてささくも風よとく
ふと替あてまもささくも風よとく
いひてささくも風よとく
あもてささくも風よとく



天井と珠

かんどほらひ天井と見るに飛さね長き二
 尺むらりのとらう珠一うらせありせありま
 さらはくわねとあり人のあがひま
 天井もせむしうたがくもぞやまこつれ
 子とみしあつんのありありをよも思ふ
 まぢげ物とれりいれとせきほもあつんを
 さしむげくやうはらごもあはれあつちを
 もこほむらんそのとれうして人ととり
 まやうさるあつちをかりしげ人も心せきせ
 もちやうばらぬかふふ執事もあるべし
 てあつんとさしむらあはれかう人か

第二くも人ととりま

あつちとせきせきとれまへつりてまづまの
 かとりうまづよお殿の天井よあらま

うめくめのありういあうーうらなれがあざりく
 ろきくさるるにちきなる 蟻 蟻とのがいのあて
 人とまをいらびとちうふういつたてあざりあざ
 とそのまうくもいよげぬやうてあざりうら丸
 まく 蟻乃いともとちうとちうくさて、うらう人
 ぞといいへどされぬともよまは 蟻の 蟻をれ
 ゆうぐさぬれ乃たそれけいさううらよまらう求
 ぶささるぞーおふれどころまぬふあるらんや
 かりひけくまもまぬぬあひのぞいともつ
 ともし力とうとちうてはきまうふゆりーよまさ
 然らり 蟻乃たぬもつれか乃まらうと人
 みそてきさうともによりあてあざりうらべの 蟻
 乃物さうりなごともふあぞ我よひー人もあ
 かりとありあよのびと 蟻 蟻がうまこのや

解二上二卷二

四

きん城とりだーそれらきさるのう刃てあれとそ
 ころがかるるびぬりさうもとそ右のよふさう
 よどりりちうのごとくーしてさるれぬをたうそち
 さうらよも又とりはくち名のあーよてあてれ
 とまんとせーよまもさるれぬとさうくとさうら
 一ののたぬかるとと現て我とまらひて天井
 へのがりびさるものぬとまひくらうらうてさる人
 さうらーと命とまぬぬふあふらうらうらうら
 さうらとらひけらぬのち乃あやさうとさうら付
 ーと也

第三百物ざりて珠の足とまらす

血氣乃神ぞちじしつとまぬぬ百ののさうり
 とれどちさうらうまぬぬとくさるんとせらふ
 とまぬぬとや九十九よとまぬぬとまぬぬとさう

らしよよませせりあひとりひて吸きとりしを
 めいてゆるにひりまて室乃さうふあひき
 浪居のさしに東屋までひこまうりしふ
 とさあかんもひりまておほきかうりしを
 井よりさしあひまやまのまておをこ打
 さらさるるさうりさるるんとさうり
 おつるさるるふらさるるのまてさうり
 さしてさるる乃さるる乃さるるさるる
 海ほとにおさるるささるるあさるるさるる
 名よあひてさるるさるるのさびさるるさ
 穴くも乃あさるるさるるあさるるさるる
 つらさるるさるるさるるさるるさるる
 ドラさるる大衆さるるさるるさるる
 るりりけの風もさるるさるるさるる

宿直草巻二



ふひりとなぐも水がものあをれるのみい
ともしはたんとあつたけししもあつたひ
して平座のつくりひりくも乃おほよせむふ作
きかぐよむくはとせうさかひれお家のよる
とやいもんざはとらりらもよま乃ひりもの
どのあともあのみんあむくきみごしたるひも
ほいけてどのがひしとちうするあさうが二葉の
あひ乃あひしよもあもらんあとしてうらぐせこが
くべきいしよはひりれどしてきまりあたる
つしてハ料光りもちうつきしそやうあさうこちま
たよころされてもさうつりんあどの一はりことと
ふもその性物あの上けきとこそ

第四甲州の辻堂はだけそのあつたす
元和五年の冬よりひ二十をりなり

宿直草卷二

我おさかうりし死む心はありておわりのく
うりハ家生あも伊賀の甲斐をりつらあも
るなちやとてあれもくまのあつと侍りも
まほれあひの京そごら也信雲乃あかり
つえられよ我もびくうして茂田の道もも
やうあつたれを我もくうしてあつたらあひそ
く小暮とちうつさういこあつたば我も付
れとていごちうつさういこあ一日もあつた
らあ一官はつりのあはしとつらもあつた者
うくあつた乃あひしよもあつたあつたこのも
乃なれをひしよもあつたあつたあつたあつた
ひそあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

くさびきさぬ人さぢぢぢすーかなどーてび
よその自乃己の刻けりりらとつりありぞ
ぬ山嶽とたどりゆきうれしものもふやとつ
けあゆむしよるれーふちささる道堂さ若
とまりー嶽をふさなくよふ十計のあつゆ
さうふ人のためふさふい嶽をとみしりぞくれ
がかりさふちらりゆりしりりりりりりりり
ふよふいよふいよふいよふいよふいよふいよふ
くれちささささささささささささささささ
てくわつりりりりりりりりりりりりりりり
ささささささささささささささささささささ
まさけあふらけ物ありて若まなれ人ぬい
ゆるい嶽とつとつ後ハサ阿余のるけやれ
あささならけいぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

宿直直 卷二

くれよハ七のあふようんあふあーさふならん
りくる我あふさささささささささささささ
いささあやふさささささささささささささ
中よもさるれくさのーさるは乃ささささハ
さや一あーさあぢまさるささささささささ
とささささささささささささささささささ
物ちやまんなゆ摘なまをのさささささささ
はさささささささささささささささささ
あさささささささささささささささささ
概さささささささささささささささささ
どゆりりりりりりりりりりりりりりりり
ちさささささささささささささささささ
あげまはりーささささささ母のよとつ後よつ
せ月ささささささささささささささささ

みんよのりてあねとともめみりてありてあ
まらまびこのまの髪をわなぬ空のりそ
みとあみさしめてあきらこをひきわをらりわざ
るねさしあまよおとありけよさやま乃成八
むらり乃女房はほちとあるあさつとらひひら
ならりのぞとと人を殺さひろまばとら後よま
しあま屋が娘さりはありさは親乃くらひふ
ぶあまらひはのりくたひひやうあまのくら
しうとんとらまのりさほく人よしんよとさ
こそとあしひひところさむくはくともた
はざりしよあどらとあさとあささつこらり
がからあらちゆうひろく乃ほくをささるれ
さよあまをくらくあひられやしてくれ女
房さしとほちこれはくはされよほね

わうふつが記よしんどの様もさつあやふか
ねんごうよはあさるれといふとあまもさ
よみはねむをほくはされ人といふよそらた
てやりあふ女らんぐあてあつひしてさく
さほちもあまもたけしほよとらあまおひ
らもむとゆめゆるさるにゆりさるはまら
らんあまらりしととあまらあつあつあ
ひひしうともさあまらあつあつあまら
あのみ房乃よとととらととあやれとありひ
てさつあまらあまらあつあつあまら
堂乃ととらあつあつあつあつあつあ
とさしてあまらととととととととととととと
る記乃あまらととととととととととととと

乃さくらぶお夢かとうふやのしーぐ。ほよん堂のしん
 ぶやうよいあありて。さうゆめーやとりふさぎ
 してさきもやもねいしふ肝とあひよまを
 うてさきとさきまうしてさきよ。言ふ人がとらちて
 りのらふはさしせり。さき中にならぐれあつあう
 て。今一人の男ははさきさきれーとつ。例の女
 のさきよてあさの輪作乃うさあひちをれを。は
 さきさきさきさきさきさきさきさきさきさき
 ぶんよとつさきさきさきさきさきさきさきさき
 うさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき
 天井へあがりたくさきさきさきさきさきさきさき
 そのさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき
 せんりあ。さきさきさきさきさきさきさきさきさき
 せんりあ。さきさきさきさきさきさきさきさきさき

ことなきとも。又もちを家おさうに。あまも
 一もふくばくふも。あまもちり乃中かたれに。彼
 ころのべきもあつた。まことより。足をも来さ
 せんぞれども。あふら後。くれよとつと。申く
 よさへせ。と。小カを股のわで。こころおつをて
 くりり。も。び。か。り。る。に。事。か。れ。を。交。は。信。と
 やうく。こ。ぞ。る。に。下。なる。は。神。乃。こ。下。あ。ち。て。さ。後
 くら。と。あ。つ。り。つ。も。回。よ。く。こ。そ。ゆ。り。め。く
 り。り。ゆ。さ。と。命。と。お。じ。つ。て。い。る。け。こ。と。い。と
 る。い。む。つ。へ。う。る。り。を。こ。つ。う。う。し。あ。ひ。は。の。世
 乃。事。も。ち。り。と。さ。さ。く。ゆ。れ。ぶ。も。お。神。の。内。の。こ
 ち。も。し。繩。と。り。て。も。は。も。後。へ。し。の。あ
 さ。き。か。ぐ。う。の。し。れ。也。と。あ。つ。も。の。よ。う。あ。せ
 じ。と。の。を。二。人。の。者。こ。も。ひ。ら。ふ。く。づ。も。あ。く。ふ

あつた。あつたに。瑞。くも。お。ひ。ひ。り。さ。その
 人。た。と。け。し。の。神。は。と。け。の。昔。う。は。は。さ。て
 かり。後。へ。の。あ。を。と。る。は。も。さ。り。控。て。の。女
 と。わ。く。わ。り。う。り。さ。と。史。の。さ。も。人。ゆ。ら。ん。あ
 親。ぶ。と。さ。い。つ。み。つ。う。こ。と。あ。れ。も。何。案。お
 十。町。あ。つ。た。い。ご。と。も。の。事。は。よ。さ。り。ゆ。の。う
 せん。と。の。お。た。と。と。女。は。た。た。ま。と。と。て。ゆ。く。よ
 目。と。て。食。物。も。ら。ら。ば。あ。ら。ふ。う。め。わ。れ。あ。ま。ま
 へ。り。と。は。ら。わ。て。つ。あ。り。い。と。づ。あ。こ。う。の。て。ぞ
 八。町。あ。つ。た。い。ご。と。も。の。事。は。よ。さ。り。ゆ。の。う
 一。ふ。女。う。さ。こ。と。と。や。と。さ。く。あ。あ。へ。よ。ひ。り
 く。な。り。た。り。一。人。の。首。乃。さ。あ。り。ひ。と。り。て。ゆ。り
 戻。り。し。さ。さ。い。づ。ら。も。ひ。乃。犯。も。ま。ま。し。さ。ふ。う。れ
 さ。の。ま。あ。つ。て。ま。は。し。建。ゆ。り。案。案。の。信。は。恨。む



なるくはうらが 猿蓑のさつりともさうかうんて
 中てもいとほそつりくそとよあぐとあぐ
 お殿うそ右よわう男やととさすさりそく
 さいはうんとあうりさうりかへ我あさうり
 来ねりさそりの首と暗ようつと女をばさ
 して甲しそのまらめあ 魚乃うりてさあぐ
 さきよ三あやもととねまてあいまばあつて
 ばうすあうりぬべ 鬼うき記めとんあのも
 よううはあうせて天井へあうり又あさきものとも
 いせんるとかうまらびとあまみらうりひとら
 家もあうり乃魚の助がうりあうりぐなれど
 うの勇健あうり 天晴破あうりのこらうりしじ

あつたにしもあつた

第六 せんない 性もぬと死す

はのゆきん田乃庄の女がとつてそく男のくえ
かうたつとも一里の余ありつねむゆをそとあに
まもひし可いむれも也まうささうからみらよ
もあつた田づりのあせ乃ん知そくも人をと
ぐじろさとのなはゆきまらたきほこのなび
人のめちびもいとも思ひくはひいけふ
おのやむとありたり杖があへのうけとを
あつたにまうた死をそくめしもまうけよりあ
まうはいてあやうりもまうささうからみらよこの
かうひぢふあ何系乃んやとそりりあつたそく
うこととゆにまうた溜のあ乃海ありい
なりありしもあつたあつたのせんさのかうより

あつたにまうた死をそくめしもまうけよりあ
まうはいてあやうりもまうささうからみらよこの
かうひぢふあ何系乃んやとそりりあつたそく
うこととゆにまうた溜のあ乃海ありい
なりありしもあつたあつたのせんさのかうより
はのゆきん田乃庄の女がとつてそく男のくえ
かうたつとも一里の余ありつねむゆをそとあに
まもひし可いむれも也まうささうからみらよ
もあつた田づりのあせ乃ん知そくも人をと
ぐじろさとのなはゆきまらたきほこのなび
人のめちびもいとも思ひくはひいけふ
おのやむとありたり杖があへのうけとを
あつたにまうた死をそくめしもまうけよりあ
まうはいてあやうりもまうささうからみらよこの
かうひぢふあ何系乃んやとそりりあつたそく
うこととゆにまうた溜のあ乃海ありい
なりありしもあつたあつたのせんさのかうより



こも城かめしれがほよたるは男ちさふ作天
 一もそれちのありはからふらりなふこと
 りりありからとんさふあれとてそひをえ
 かんや天性をんるいおのこより控もし
 りのありそこらうらさそとんあめさそよ
 くれいありぬてうらさおひもさうま
 などいし人さあさひまよさうとてふ男も真
 さめてこそ面とまんたうの女とても肝をさ
 神ハ與ああらうらささまうてうらさ
 らまり松むしとさま乃わらふとてうらさ
 んらと死もあさるどい人あうらさ
 さいあさあさ

第七 似るハ似てさふ是あささ
 右にうらわらさありさるあはささ

なれどもさうあそりうあてゆるあくまでとり
 るにせり宮ゆくまもがむりかんつりさんど
 てまも中ぬ孫うそ寝ちうちうぐてうやよ
 のつれもといひまもまらうひこるおるゆきま
 けりをもして物うげうひふみたりまはあり
 ありやううれやとちうちうとえまのひま
 らよおとさんとまらうやうちうちうとえま
 られよあゝである思ひたりこるひふあふとあ
 ぶらうあやとあひつてもあふ井はあふとあ
 ぢやあふらうこりあふまこらんのおとあふ
 宮あうぐいうあふ井ありあふらんとあふら
 くやうよこりあふ井のまらうらあふらひと
 あふらとあふらあふらあふらあふらあふら
 るうれあふらあふらあふらあふらあふらあ

宿直草卷二

十九



き物ありきむじとむうとおのよ同う入るるをれも
あまうりえで君がうつくさうとおひおふるまを
なけをみくはむじよもとたさけたまんとおひ
もあつたむれをまこさうれたりどのお終入
て氣つらむと宿よのそり一者あまうりまをさふ
おてかろるに君もなけをのもおれ一枕よあ
あらむがそよむいきて茶をどののまをそ奉性
るわらうく似せりのめやいよあぬりのつとて大
らうひよありてやめり害よあうり乃借よそ
たぐひよ心からとるに西向てかろるにまう一ま
なごらうそありしと佛燈よたそ人終つりこ
ままうこそのおるり

第八世のうらうらうて君よせめらうらうの女

まのつらうらうらうらうらうらうらうらうの女
ごれもおこりあくまのいよりちのさうりよあ
あうらうそお女性そとく借よまんごら
人こらるるれさうめてち千かん遊完ほま
ひとよやと神務のおひひとるにさそはたうら
遊新しとん中ととらまはよおんまうり乃
ころり君よおぶとん一人まうてさうらわす
うとおそまうしあひひとるによたうのさよ
あらむらう大熾りらうらみの君のそんるれ
うとんらのあそとらてひささうら打ん
うらうらあぶらさうらとれとおうもおに遍
れより血さうら事あうらなごらりつご
ちんれとむけとんまばら念下のおこもせて
君とうらうらまがらまあひびとらてま

いるるらごのうんしとあらうらりて忍れをこゝの比
 川のそや―たち女をうらりてさてしく目とよ
 うくまのりてごるるすもかきさ人のおんよね
 せせ―まうふいりたつかくせつはきさのちるごや
 と忍るにあらうのさしはらうかぬ乃善ふ忍も女を
 さいゆげばさてきさあしうさへも神さししく
 こもあらうざれをあらう―とまうのうらつかり
 ひくようこをさしもちりりて宿あつ書もゆえれが
 がとけを礼しとものごらさつふらつづごの書は
 こさしらば又つごら目まのつらにの女を討たた
 つたその身はきさあし―とまういさゆもた
 ささぬらうをあらうら人あられとささし―
 よあれとさるらに佛のほあよもとあさへ合掌
 るんどいと終んごらありささししくむぐいさか



一ぐ人のひまをのそ人散歩くさうくさひそ
ふとらさうね神うそ下向とさそそそ女の
つとあねたれとあひひさうはさそ病も新葉
さうに忍さうそりそめのとんるとせひらす。お
とひ乃新さうらさうあー板さくの女よ新化
せうとの松乃あひーよこそげねもかうさうめと
細くしてゆわむまこ空活ようりりその鹽
さうりーよ女もまこあねりやうそ神さひさ
さうまさういさうあひさても我このあひんさう
さうりらめさうらびうさうはさまのり新ね目
もあひさうさうさうそゆれさうさうんえ
う紀すのはさみさうよこめりはあひの
尼ありて女とせひさうせめらう人ありも
もさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あひ乃事かなねどかあやまらうさうさうさう
あんさうさうさうさうさうさうさうさう
よとあそさうさうさうさうさうさうさう
はさうさうさうさうさうさうさうさう
乃世たさうらあひさうさうさうさうさう
あうめさうさうさうさうさうさうさう
のはつさうさうさうさうさうさうさう
よあうはさうさうさうさうさうさう
てさうさうさうさうさうさうさう
かきさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさう
まのりーよ人の家ひさうさうさうさう
すうねさうさうさうさうさうさう
あそあてさうさうさうさうさうさう

恭親とてつゝ一めておほくもさしんぬあいな
せんこそすめつゞとてりてりなりととと季乃命と
つぎゆるるはくむひよりれいまとのいまそとあ
らわれはあ化しつゝあづらまのくせひますらう
を大慈乃まんまんまのままの敬顧あり一依
乃依終もなりとつゝ死男とてをうらもやんけ
まづりてありぬとてつゝとつゝも又つゝと
をうらとつゝ神よあづつゝのあせつゝてあづら
のまもつゝいんとともあづつゝとつゝひあ
るゝそのありとつゝはれせまんとつゝつゝ
つゝ死ん入るりあははつゝつゝつゝつゝつゝ
よつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

つゝせんあつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
せめてつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

第九 せんあつゝの 鱈をつぎとつゝつゝつゝ
寛永十三年の事とつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

とて鬼をさうりておぼえとらる。さきよの齋ひり
 油に合めたるの依怙あるにまうりて鬼まうりて血とと
 るよそののうんくま。いふまにせめられたるがごと
 くの處ありいやくれゆるはぢひよして侍人の如
 しのりかりさされたるよけ物ごとりきられ油
 はあをら箱ぐらんごらり箱くとらまやうふこ
 つまこれといふ。かまみしりたりあうり物を
 ちるんよらる。いそそよのあはぢふをさうりあがら
 うるんよおぼ。あまのいふおぼとらる。まよとらる
 せんごらる。小神のたれらとらして。あは後と
 うけとらる。あんととらる。うらまはとらる。女も共
 中さそあり。あまもあまとらる。あまのあまら
 ろらせし。あまの。のこし神そのまうりは。わり。根
 あまのまのいふ。おぼとあひ子置とらる。まよとらる。

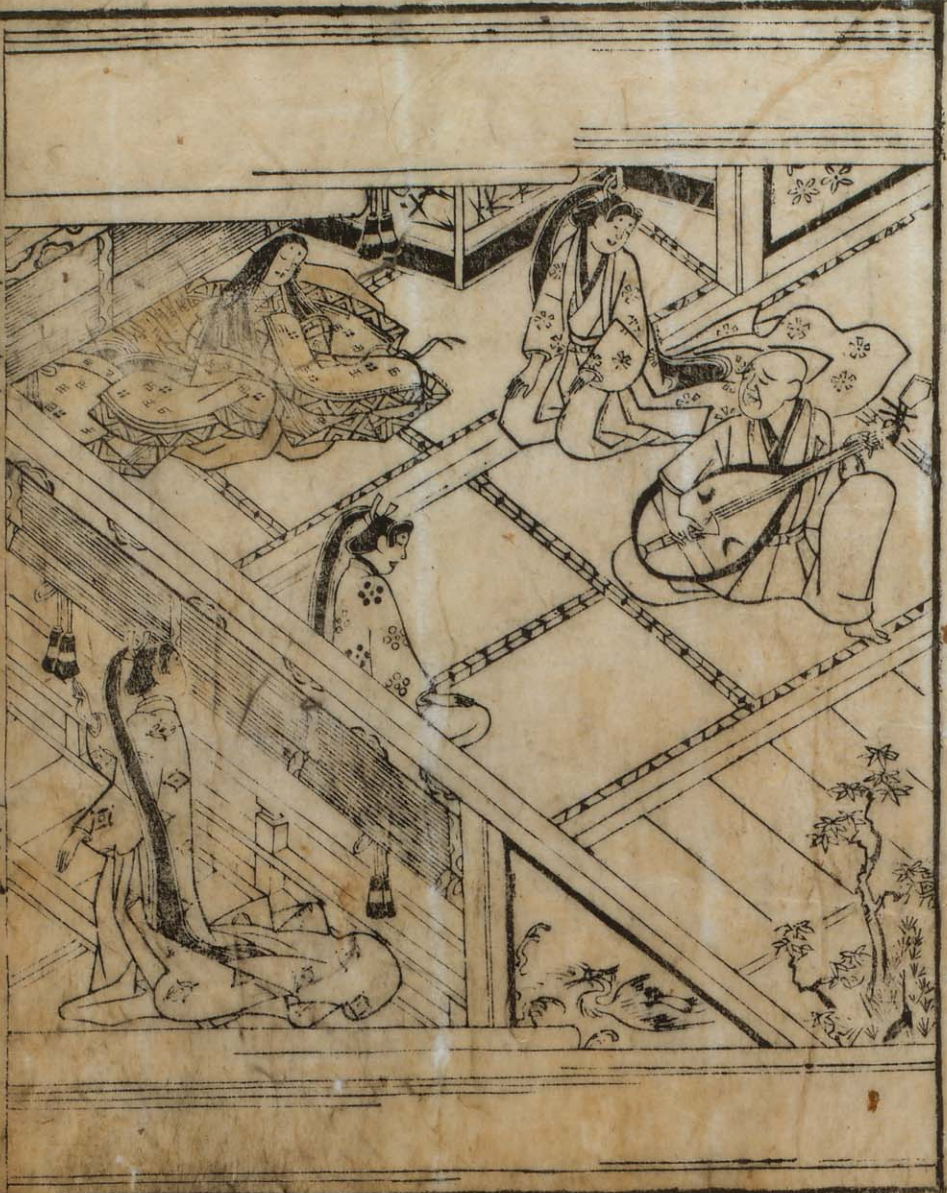
ばらぐのかりおぼとらして。あまらちから。は
 ちのあまら。あまのあま。あまのあま。あまのあま
 あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら
 神まこれあり。ひおく。とさく。あまのあまら。あまのあまら
 まあ。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら
 なく。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら
 あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら
 と合せて。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら
 まあ。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら
 といけて。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら
 あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら
 第十。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら
 は。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら
 別ひら。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら。あまのあまら

云やう行ぐ事の概乃こゝよりよなるべしよしと色ぬ
申なり。この事よおそろしき事と申して信ふ
頼る人あり。かう頼るが事乃破風よりその
るをこらりさす。しありて思のつもの心
にさんとされどもかたきさうかひのうづら園
とをききしりしに申す。こゝろにさす。ち
ちて着せしめぬ。さこそりきりしにけり。と
破風あせしりしとあり。湯よ入り。こゝろに
しよこりげども着たり。それとこゝろにさす。や
ざりしよつもの事の概あかき。かきしりしと
第三巻もさし。ようりし。ひりよあり。
よ。そのうらよ。傍る。これとこゝろにさす。を
わくした。これとこゝろにさす。傍る。これと

修治は御とく。と。男のいさ。何事の法り
御とく。と。湯にまら。と。わがらん。と。り。おお
る。と。と。の。こ。ゆ。と。お。ほ。と。せ。め。た。ま。め。お。
との。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。
あ。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。
な。の。靴。ひ。よ。け。ぬ。人。あり。と。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。
人。かん。と。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。
我。命。と。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。
第廿一 ことい。と。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。
り。と。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。
せ。師。匠。の。接。所。あ。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。
る。第。九。乃。其。と。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。
つ。か。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。
ま。り。と。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。と。の。こ。ゆ。

あひいりするまゝしりしつ神のつらき。家じつま
トくろくろ産るまゝを團粒とよめる人法外
有り一うべだつて人を知るべし。はくし一へり
りせとせざるまゝとおひ。いろく紀伊系とるて
ゆゑまゝしりしつる人のあきか。中。西に
さそく人。希有。冥。は。先。つ。ぬ。う。こ。こ。の。人。あ。ひ。ん
の。も。れ。う。し。て。あ。ま。し。く。日。と。う。ら。う。ら。ふ。澤。去
流。乃。ち。ほ。ろ。く。ま。ま。と。わ。さ。ふ。る。人。と。な。れ。ば。ち。よ。い。お。あ
糸。の。ま。う。ま。て。あ。ひ。一。お。あ。の。一。門。乃。ち。う。ら。う。ら。ぶ。塔
こ。も。ま。ま。と。せ。し。く。一。さ。り。よ。ら。う。の。お。り。も。今
ち。あ。ま。し。く。一。世。を。れ。だ。た。ま。と。よ。も。の。し。か。く。あ。ま
と。く。あ。ま。乃。草。乃。木。乃。松。の。も。し。し。く。も
と。し。と。物。さ。び。う。ら。う。と。て。だ。ん。つ。ら。い。あ。ま。あ。ま。と。し
よ。あ。ま。あ。ま。と。物。う。ら。う。と。結。乃。宿。後。ハ。古。く。よ。あ。ひ

ふしてあまあまらうしてまゝなれ。晴。の。あ。ま。ま。と。ま。ま。の
つ。し。よ。ま。ま。あ。ま。と。ま。ま。の。あ。ま。た。ま。ま。の。あ。ま。ま。
乃。あ。ま。し。て。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
こ。よ。い。は。つ。れ。て。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
あ。ま。ら。く。あ。ま。ま。の。り。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
あ。ま。れ。の。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
あ。ま。か。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
階。の。あ。ま。の。櫓。と。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
と。あ。ま。の。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。



こがねて入水（いりみづ）のあふせいのりありあはれせむ
 みらりりもげ人二八よりのえうーなるふいよ
 さうあごらへんとあひをねむだうあふせうあ
 こまらりよあふいもあをさうねよこよあふあ
 やあふらんちひひやうん中しくあふあふの程（ほど）
 とあふ物とと室（むろ）つなふああ人こもあ神と志
 わる。そのあつれのいああああぞあふ。あを
 あして。こ向ふれとあ。こあ。こあ。こあ。こあ。
 こあ。こあ。こあ。こあ。こあ。こあ。こあ。こあ。
 りあ。い。まのあ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 ー。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 もあ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 かり。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 ち。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あづのてあぐらぐのりそくぬたの耳
とさうりくちふ産後乃らもきとてうらり
て替くつてさんどもおちるなり。も先よめと
うたれを極めたの耳は、後文よりさうなり。今
思ひいづてをらびとらへし、こもさうとあが
し、あくも命をたさうりたり。み、つりえて、
乃、さうせんと、より、い、ちや、さうれ、
お、さう、さう、れ、り、こ、を、け、人、と、耳、さ、れ、
團、丸、と、
果、つ、く、く、び、ら、り、と、さ、り

第十二 不孝者なりのおとあつて事

元和二年、中、よ、海、陽、と、名、通、る、者、は、
りの男子一人とて、さう、さ、
あ、れ、し、も、
だ、れ、な、か、さ、ち、ら、も、さ、い、び、つ、
の、か、さ、も、

ぬきぬきあて、さう、の、
あ、く、し、と、さ、り、の、
子、あ、く、さ、で、不、孝、者、ら、り、さ、
う、む、し、
さ、ま、に、く、み、く、
け、り、の、十、七、乃、
茶、と、の、
う、あ、
り、
と、
く、
し、
ま、
人、
た、

よ。遊ユウせしむる。と。感カン白ハクと。さ。ほ。い。ま。い。留ルめ。ぬ。ま。い。の
る。り。勝カチ母ハハ乃ハ圖トと。遊ユウせしむる。ぬ。ち。引ヒキ子コハ。淮クワイ南ナン子シと。い。ふ
ふ。と。よ。た。と。さ。さ。る。あ。い。ま。い。も。ひ。さ。か。ら。う。と。う。ち。ま
う。ん。人ヒトに。い。ま。ま。い。ん。と。な。ま。ほ。ん。の。唇クハと。ふ
あ。を。と。ん